

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-103	高等学校	地理歴史	地理総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※ 教 科 書 名		
81 山川	地総 081-901	地理総合 改訂版		

① 編修の趣旨及び留意点

教育基本法の第1条には、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とあります。本教科書は、教育基本法および学校教育法の趣旨を踏まえ、高等学校学習指導要領「地理総合」に示された目標・内容・内容の取り扱いに則り、以下の趣旨に基づいて編修しました。

○ 地球規模でとらえ、考える～ Think Globally

第1章「地図とGISの活用」では、地理学習の端緒となる地図やGIS（地理情報システム）の活用の仕方について、世界規模の人・モノ・情報のつながりに着目しながら学習します。これをもとに、第2章「地理的環境の特色」および第3章「世界各地の生活文化」では、生活文化の多様性や、生活文化に影響を与える地理的環境についてさまざまな側面から学習し、第4章「地球的課題と国際協力」では、さまざまな地球的課題について、SDGsの観点のもとに学習します。これらの学習を通して、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質といえる、地理的な知識や技能を身につけることができます。

○ 地域の課題を理解し、行動する～ Act Locally

第5章「生活圏の諸課題」では、第4章までの学習で身につけた知識・技能を活用して、生活圏の諸課題について学習します。地図・GISの技能を活用し、防災学習や地域調査を通して、課題を発見し、調査し、解決に向けた方向性を見いだす力を養います。その際は、生徒自らの主体的な行動が促され、心身ともに健康な国民の育成に寄与します。



◀口絵・世界の友達から「こんにちは」
口絵ページには、各国の生活・文化、人々の様子が読み取れる写真を、あいさつの言葉とともに掲載しました。

② 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標、学習指導要領に示された教科「地理歴史」ならびに種目「地理総合」の目標を達成するために、以下の方針により編修しました。

【第1号】幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

地理総合は、高等学校地理歴史科の基礎となる必修科目であり、地理で身につける知識と教養は、社会科学習の基盤となるだけでなく、国際社会・地域社会で活躍するすべての人々が身につけるべきものであると考えます。本教科書では、幅広い分野・地域の事例を取り扱うとともに、現代社会の生活文化や課題から「地」の「理（ことわり）」を見いだし、多様な視点から探究できるよう、トピックを豊富に取り入れました。また、身近な課題について、地図学習や地域調査を主体的に行うことを促しており、豊かな情操と道徳心、健やかな身体を養えるように配慮しました。

【第2号】個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

多様性のある世界の生活文化を学習するにあたって、グローバルな広がりを持つものだけでなく、少数民族や地域特有の生活文化を多く紹介し、その価値を尊重しています。また、「Think globally, Act locally」の精神のもと、地球的課題を自分のものとして意識した上で、地域の課題を発見し、解決に取り組むよう、学習段階に応じた探究学習を取り入れました。

【第3号】正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

私たちの生活文化は、自然・文化・経済という三つの側面との相互作用で形づくられています。しかし、自然重視の立場と、経済重視の立場など、意見が対立することがあります。本教科書では、こうした課題解決のためにSDGs（持続可能な開発目標）を重要視しています。また、自然災害に備えるにあたって、自助・共助・公助の精神を説いています。こうした学習を通して、主体的に社会形成に参画する精神が養われるようにしました。

【第4号】生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

本教科書には、「Sense of Wonder」を育む写真を豊富に掲載しています。写真には撮影年月を明記し、その地域のありのままの姿を正しく伝えるものを選んでいきます。また、人口・食料問題や気候変動など、危機的な状況がみられる事象については、世界で活躍する写真家・ジャーナリストによるメッセージ性のある写真を取り上げました。また、環境問題の要因やしくみについて詳しく記述しており、自然環境を保全することの大切さを理解できるようにしました。

【第5号】伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

第1章③「国家の領域と国際関係」では、地理院地図やWeb地図を含む多様な地図を活用し、海洋にも大きく着目しながら国家の領域について学習します。第3章「世界各地の生活文化」では、世界の諸地域と日本との関係についてコラムで取り上げ、地域調査では、地域資源を活かした活性化の事例を取り上げています。これらにより、**自国を愛し、他国を尊重する精神**を身につけられるようにしました。

③ 対照表

第1章 地図とGISの活用		
導入・進化する「もう一つの地球」の描き方 ① 球面上の世界 1. 球面的思考で地球上の位置をとらえる 2. 地図を利用して世界の時刻をとらえる 3. 平面的な地図で世界をとらえる	地理空間情報の基盤となっている位置と時間について、なぜ科学的に正確に測る必要があるのか、歴史的経緯を踏まえて、その仕組みを正しく理解できるよう工夫しました。導入では歴史的な地図をもとに世界観の変化を考えさせるなど、豊かな情操を育む配慮をしています。(第1号・第5号)	p.12 ～ 21
② 地図とGIS 1. 身のまわりの地図を集める 2. 国土の基盤としての地理院地図の活用 3. GIS・GNSSのしくみと地理空間情報の活用 アクティビティ① アニメの聖地マップを作ろう。	地理学習のために必要な、地図に関する基礎知識、コンピュータでGISを扱う基礎的な技能を学習します。アクティビティでは、アニメ聖地地図を題材とし、自ら情報を収集し、情報を選択・処理する技能を楽しく身につけられるよう配慮しました。(第1号・第2号)	p.22 ～ 35
③ 国家の領域と国際関係 1. 国家の成り立ちとその領域 2. 海洋国家としての日本の領域・周辺水域 3. 日本の領域に関する問題 4. 国と国との結びつきと国際協力	国家とその領域についての基礎知識を身につけた上で、日本の領域と、北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる現状について、地理的・歴史的側面の双方から学習を深められるように配慮しました。地形図などを活用するとともに、海洋に大きく広がる日本の排他的経済水域と海洋資源についての記述を充実させました。(第1号・第5号)	p.36 ～ 43
④ 人・モノ・情報のつながり 1. 狭くなる地球～交通の発達 2. 人のつながり～観光の発達 3. モノのつながり～貿易の発達 4. 情報のつながり～通信の発達	人・モノ・情報を通して世界がどのようにつながっているかを、多様な図法の地図を通して大観させることにより、主題図を正確に読み取るリテラシーを育みます。貿易と国内の物流を組み合わせで紹介するなど、日本に暮らす人々の生活との関連性も重視しています。(第2号)	p.44 ～ 51
第1章のまとめ	各節で学んだことを復習することで、国際社会で生きる上で必要な知識・技能を修得させます。また、思考力・判断力・表現力を高めるために、主題図を読み解く問題を設けています。(第1号・第5号)	p.52 ～ 53
第2章 地理的環境の特色		
導入・自然と人間が織りなすカラフルな世界	章の導入として、写真から生活文化の特徴を読み取り、その背景を見いだす方法を紹介しています。特に、生活文化と自然環境の関わりがみられる写真を掲載しています。(第2号・第4号)	p.54 ～ 55
① 地形と生活文化 1. 変動帯とプレート 2. 河川がつくる地形と生活 3. 海岸の地形と生活 4. さまざまな環境で形成される地形と生活	私たちが生活する地形の成り立ちについて学習し、長い年月をかけて形成された地形と、生活との関わりを考えます。模式図とともに写真を豊富に掲載しており、自然に対する関心を高めます。節末では自然地形に関連した地形図の読図コラムを設け、QRコードにより地理院地図をデジタル環境で活用できる配慮がなされています。(第1号・第4号)	p.56 ～ 67
② 気候と生活文化 1. 大気の循環 2. 気候の地域性 3. 植生と気候区分 4. 熱帯の自然環境と生活 5. 乾燥帯の自然環境と生活 6. 温帯の自然環境と生活 7. 亜寒帯・寒帯の自然環境と生活	世界の気候を区分してとらえ、それぞれの気候帯の特徴と、生活文化との関わりについて学習します。最新のメッシュ気候値を用いた気候区分図や、それぞれの気候帯の分布図・代表的な地点の雨温図とともに、特徴的な気候景観の写真を豊富に掲載しており、前節で学習した地形とともに、自然に対する関心を高めます。(第4号)	p.68 ～ 83
アクティビティ② 料理を通して生活文化について考えよう。	このページでは、地理的環境と生活文化の関連性を、世界各地の料理を実際を作ることで、楽しみながら考えられるよう工夫しました。(第1号・第2号)	p.84 ～ 85
③ 産業と生活文化 1. 農業と生活文化 2. 農業の発展と生活文化の変化 3. 工業の発展と生活文化 4. 商業・サービス業の発展と生活文化	生活文化に影響を与える世界の農業、工業、商業・サービス業の発達について、地図や写真をもとに大観します。ICTなどの発達による新しい時代の動向を重視するとともに、主食や工場などの多様な写真の掲載により、生活文化の多様性や変容とも関連づけています。(第1号・第2号)	p.86 ～ 93

④ 宗教・言語と生活文化 1. 宗教の広がり和生活文化 2. 言語の広がり和生活文化 3. 生活文化の画一化と多様性	生活文化の基盤となっている宗教・言語について、主題図や写真を通して、その多様性を理解させます。また、伝統文化とともに、観光客の増加など国際化・グローバル化の流れのもとでの画一化や多様化について考えさせ、マイノリティの重視など多文化共生社会の重要性を説いています。(第1号・第5号)	p.94 ～ 99
第2章のまとめ	各節で学んだことを復習することで、生活文化に影響を与える地理的環境の知識・技能を修得させます。また、フォトランゲージを通して、多様な生活文化とその背景を見出す思考力・判断力・表現力を養います。(第1号・第4号)	p.100 ～ 101

第3章 世界各地の生活文化		
導入・水が育む人々の多様な生活文化	導入として、生活文化と相互に影響し合う自然、社会、経済といった地理的環境について、写真とともに取り上げています。また、開発により変化する生活文化と自然、社会、経済との関連を模式図で説明しており、幅広い知識と教養から真理を求める手助けになります。(第2号・第5号)	p.102 ～ 103
技能・デジタル地球儀を国際理解に活用する	第1章で学習したデジタル地球儀を活用して、生活文化と地理的環境の関係を考察させます。(第2号・第4号)	p.104 ～ 105
① 経済発展と生活文化の変化～東アジア ② 宗教の多様性と生活文化～東南アジア ③ モンスーンの恵みと生活文化～南アジア ④ イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏 ⑤ 多様な自然の恵みと生活文化～アフリカ ⑥ 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国 ⑦ 寒冷地の開発と生活文化～ロシアと周辺諸国 ⑧ グローバル化による生活文化の変化～アングロアメリカ ⑨ 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ ⑩ 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	世界各地の生活文化について、自然、社会、経済、開発の観点からそれぞれ1事例を選び、地理的環境との相互影響を踏まえて学習します。各節の導入では、左ページに着目する地理的環境に即した景観写真を大きく掲載し、右ページに多様な生活文化がみられる多くの写真を掲載しました。これにより、生活文化の各事例を学ぶにあたり、その特徴を概観できるようにになっています。(第2号・第4号) 節末には、日本との結びつきについてコラムで掲載しました。これにより、他国を尊重する態度を養うことに寄与します。(第5号)	p.106 ～ 143, p.146 ～ 179
アクティビティ③ 旅行計画を立ててみよう。	各節で学習してきたことをふまえて、各地の生活文化を比較し、生活文化にみられる自然、社会、経済の影響を具体的に考えさせるページです。一人一人が異なる国について自主的に学習することをうながしており、創造性を培い、自主自律の精神を養うことができます。(第2号・第5号)	p.144 ～ 145
第3章のまとめ	各節で学んだことを復習することで、多様な生活文化に関する知識・技能を修得させます。また、資料の読み解きを通して異文化を尊重する精神を養います。(第1号・第2号)	p.180 ～ 181

第4章 地球的課題と国際協力		
導入・相互に関連する地球的課題～SDGs	導入として、SDGs（持続可能な開発目標）で掲げられている17の目標を写真とともに示すとともに、SDGsと自然、社会、経済といった地理的環境との関係、地球的課題との対応を明示しています。写真は、人物に焦点を当てたものを多く掲載しており、個人の価値や男女の平等についても考えるきっかけになります。(第2号・第3号)	p.182 ～ 183
① 地球環境問題 1. さまざまな地球環境問題 2. 減少する熱帯林と進行する砂漠化 SDGsと未来社会① 気温上昇を1.5℃に抑えられる社会	海洋汚染や大気汚染、熱帯林の減少・砂漠化、地球温暖化について、写真・地図・模式図により、緊急な対策が必要なものとしてとらえさせています。SDGsの「誰一人取り残さない」という意思を明示し、持続可能な社会とはなにかを主体的に生徒が理解できるよう、本文の記述にも配慮しています。(第2号・第4号)	p.184 ～ 189
② 資源・エネルギー問題 1. 多様な資源とその課題 2. エネルギー資源の変化と課題 SDGsと未来社会② 資源やエネルギーが循環する社会	鉱物・エネルギー資源の特徴や偏在性について地理的に考察する一方、資源のリサイクルや、再生可能エネルギーの活用により環境への負荷を減らす可能性を幅広く紹介し、具体的な課題解決の方向性を考えさせます。(第1号・第4号)	p.190 ～ 195

③ 人口問題 1. 人口と人口問題 2. 世界各地の人口問題とその対策	経済発展の段階により現れ方が異なる人口問題について、インドとフランスを事例に、解決に向けた方向性を示しています。その際、リプロダクティブヘルス/ライツや男女共同参画社会について取り上げ、男女がともに協力し課題解決にあたる必要性を説いています。(第3号)	p.196 ～ 199
④ 食料問題 1. 二つの食料問題とその背景 2. 食料問題に対する様々な取り組み SDGsと未来社会③ 安全で多様なトイレを利用できる社会	世界全体でみると十分に生産されているはずの食料が、一方では不足し、一方では過剰になっている現状について、その要因を様々な角度から考察させます。特に、こども食堂など身のまわりで行われている活動について取り上げることで、社会形成に参画し、発展に寄与する意欲を高められるように配慮しました。(第1号・第3号)	p.200 ～ 205
⑤ 居住・都市問題 1. 都市の成立と発展 2. 都市への人口集中と問題 3. 都市の成熟と再開発 SDGsと未来社会④ 移民・難民と地域が共生する社会	都市圏の規模や、都市と農村の違いを捉えさせた上で、都市への人口集中により発生するさまざまな問題について、具体例とともに考察させます。移民・外国人労働者の増加や、都心回帰などの新しい動向とも関連づけながら、社会形成に参画する態度を養います。(第2号・第3号)	p.206 ～ 213
第4章のまとめ	各節で学んだことを復習することで、地球的課題に関する知識・技能を修得させます。また、思考力・判断力・表現力を問う関係構造図の作業問題を通して、五つの地球的課題を自分ごととして捉え、解決策を考える自主及び自律の精神を養えるよう配慮しました。(第2号・第4号)	p.214 ～ 215

第5章 生活圏の諸課題		
① 日本の自然環境と防災 世界地図でとらえる自然災害のリスク 1. 世界からみた日本の地形の特色 2. 世界からみた日本の気候の特色 3. 地震・津波と防災 4. 火山の噴火と防災 5. 風水害と防災 6. 都市型災害への備え 7. 地域防災と復興	日本の地形や気候といった自然環境の特色を、世界的視野で学習した上で、人間生活に被害をもたらす自然災害について、地震・津波、火山の噴火、風水害、都市型災害に分けて、体系的に学習します。 自助・共助・公助の精神をもち、地図を活用して主体的に行動する力を身につけられるよう、ハザードマップを豊富に掲載しています。(第3号・第4号)	p.216 ～ 237
アクティビティ④ 身近な地域の災害リスクに備えよう。	地図は、災害発生前、災害発生時、復興時のいずれの場面でも、情報を整理し、現状を包括的に把握する手段として役立ちます。天竜川流域を事例に、タイムラインに沿って適切なスケールで、ハザードマップを活用して防災・避難行動に役立てるよう、段階を追って考えさせます。(第3号)	p.238 ～ 239
② 生活圏の諸課題と地域調査 地理の力で地域の魅力発見や課題解決にチャレンジしよう 1. スケールを変えて見る地域の特徴と課題 2. 地域調査① パーチャルとリアルでの景観観察 3. 地域調査② 現地での聞き取り調査とまとめ	身近にみられるさまざまな課題について、地域調査を通して解決のための方法を考えます。ここでは、愛知県豊橋市を事例として、地域の現状と課題を把握し、現地調査を通して魅力や解決策を見出していく過程を、具体的に紹介しています。その際、GISを活用した階級区分図・分布図づくりの手法を取り入れ、他地域でも生徒が自主的に応用できるようにしました。(第2号・第5号)	p.240 ～ 247
アクティビティ⑤ 地域調査の結果を発信しよう。	地域調査の結果を、ポスター・プレゼンテーションソフト・報告書の形で発表する方法を紹介しています。その際、課題解決方法を生徒が提案する形を取り入れ、主体的な調査を促しました。(第2号・第5号)	p.248 ～ 249

④ 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 高等学校の地理歴史学習の基礎となる知識・技能を確実に身につけられるよう、内容の充実を図りました。
- 平易な文章表現をこころがけるとともに、振り仮名を豊富につけ、太字・参照ページ等を適切に配置しました。
- 写真・主題図を豊富に掲載し、視覚的にも、その節で学習する事項が明確に理解できるようにしました。
- 生徒が自学自習しやすいよう、写真の説明文や用語解説を充実させました。
- QRコードを適宜配置し、動画やWeb地図などを活用して、デジタル環境で多角的な理解ができるよう配慮しました。
- カラーユニバーサルデザイン(CUD)に配慮し、すべての生徒にとって学びやすい誌面となるよう心がけました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-103	高等学校	地理歴史	地理総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
81山川	地総 081-901	地理総合 改訂版		

① 編修上特に意を用いた点や特色

地理総合の目標は、学習指導要領には「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す」とあります。本教科書は、こうした目標や、学習指導要領の総則に示す教育の方針を達成するため、特に以下の点に意を用いて編修しています。

A. 必要な知識・技能が過不足なく身につく構成

内容の取扱い(1)アには、「基本的な事柄を基に指導内容を構成すること」とあります。地理・歴史学習の基盤となる知識・技能が確実に、過不足なく身につくよう、各章のバランスの取れた目次構成をとりました。多様な学び方に対応できるよう、第3章「世界各地の生活文化」は、世界を10の事例に分け、「自然」「社会」「経済」「開発」の観点から一つずつ選択して学習する形をとりました。(➡② 対照表を参照)

紙面構成は、生徒が学ぶ内容が明解になるように、見開きで完結させました。また、みずから学び課題を探究できるよう、問いかけや地図帳リンク、解説などを適宜掲載しています。

紙面イメージ

動機付けを明確にする
学習のテーマ

問いかけ・
地図帳リンク

考察を促す
丁寧・充実の
用語解説

GISデータで描いた主題図

1 多様な気候と生活文化

2 アフリカ大陸周辺の地形的特徴

豊富な写真と多彩なコラム

1 西アフリカのバニラ料理・マトク

2 西アフリカの伝統料理・ト

3 エチオピアの生食・インジェラ

4 アフリカの伝統料理

5 アフリカの伝統料理

6 アフリカの伝統料理

7 アフリカの伝統料理

8 アフリカの伝統料理

9 アフリカの伝統料理

10 アフリカの伝統料理

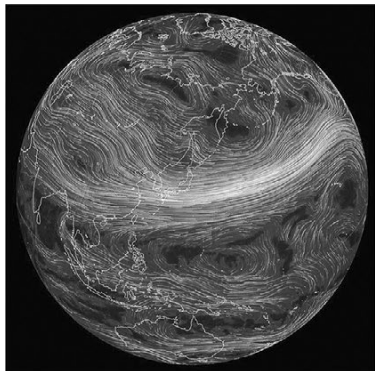
「まとめと考察」で
振り返りと探究学習に対応

授業の余談にも使える「豆知識」

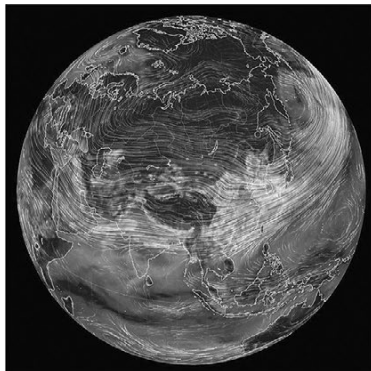
調べ学習に役立つ情報源

B. 豊富な写真によるビジュアルな構成

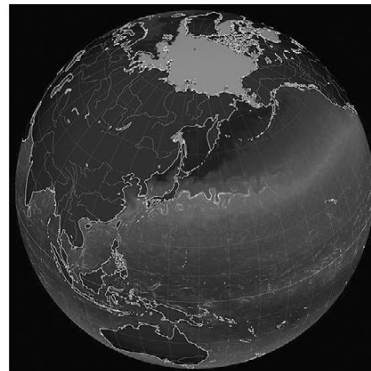
内容の取扱い(1)イでは、「衛星画像や空中写真、景観写真の読み取り」などの地理的技能を身につけることが求められています。これに対応し、教科書には約 540 点の豊富な写真を掲載しました。衣食住など、地域の自然環境や人々の生活文化などの景観要素が読み取れる「地理写真」を世界各地から集め、ほとんどの写真に撮影年・撮影月を明記しました。



③ 高度「250hPa」



④ モード「粒子状物質」



⑤ モード「海」

↑ p.21 地理の技能「Web 地図の基本操作を体験しよう」(earth:: 地球の風)
地球儀ソフトや Web 地図の基本操作について技能コラムで紹介しています。

食の世界～米・小麦を用いる食文化の広がり

① ベトナム～米田での稲の収穫

② ベトナム～米餅「ブン」を売る露台

③ ベトナム～米粉によるお好み焼き「バインセウ」

米の調理方法に違いがある背景は何？
私たちが毎日のように食べているお米のご飯。世界にも、日本と同じように稲を栽培している地域がみられるが、その調理方法は多様である。例えばベトナムでは、蒸にしたり、丸い生地にして焼いたり、具材を巻いたりする。そうした調理方法の違いには、どのような背景があるのだろうか？

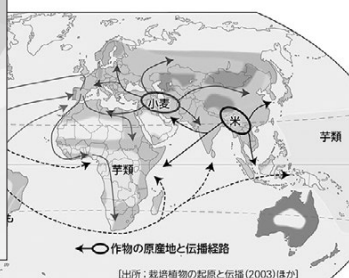
2

教科書全体で、世界各地の料理を 39 種類紹介！

米の料理：
「ブン」、「バインセウ」、「ゴイクオン」、
「ビリヤニ」、「ナシゴレン」など
小麦の料理：
「ナーン」、「チャパティ」、「ラグメン」、
「シャコティス」、「カオチー」など
ロシアと周辺諸国の料理：
赤いボルシチ、ピンクのボルシチ、
白いボルシチ、緑のボルシチ など...

← p.2 口絵ページ「食の世界」

代表的な主食作物である小麦と米の栽培景観とともに、小麦や米を利用した多様な調理方法と食文化を、人を交えた臨場感のある写真で紹介しています。



↑ ⑩ ビリヤニ(バングラデシュ・ダッカ、2019年3月撮影) 東南アジアや南アジアでは長粒種のインディカ米が食べられている。

→ p.87

「農業の地域性と生活文化」

主食作物の原産地と伝播経路、主食の分布を示した主題図とともに、代表的な主食作物を用いた食文化の写真を掲載しています。



↑ ⑪ スウェーデンのパン屋(ストックホルム、2018年6月撮影) 小麦だけでなく、ライ麦のパンも売られている。ライ麦のパンは、黒い色で少し固め。

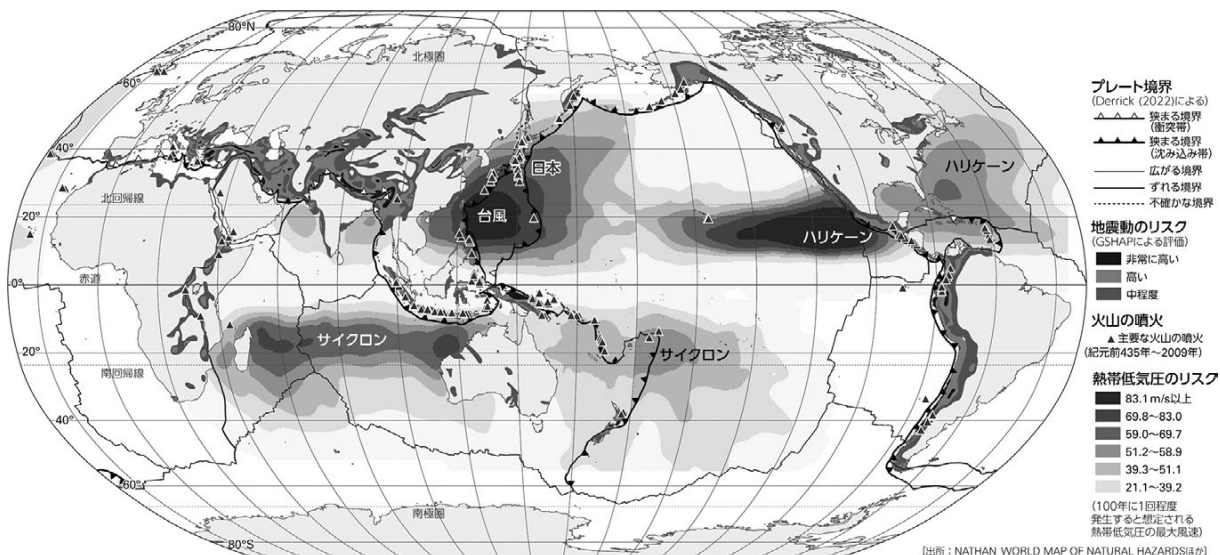


↑ ⑫ とうもろこしのタロア(トルティーヤ)(スペイン・バスク地方、2016年10月撮影) アンデスの伝統的な主食で、ヨーロッパにも調理法が伝わっている。



↑ ⑬ イギリスのジャケットポテト(チチェスター、2018年1月撮影) イギリスではじゃがいもも主食に位置づけられている。

内容の取扱い(1)ウでは、「地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れる」ことを通して、地理的技能を身につけることが求められています。教科書では、第1章「地図とGISの活用」で基礎的な知識・技能を紹介するとともに、地理院地図や地理情報システム（GIS）を用いて制作した多様な地図を、各章に掲載しました。



↑ p.66 「自然堤防」(土地条件図)
(第2章「地理の技能」)
地理院地図に土地条件図を重ね合わせた図です。QRコードにより、地理院地図のウェブサイトと同様の地図を表示することができます。

Map of South America showing climate zones. Legend:

- Af: Tropical Rainforest
- Am: Tropical Monsoon
- Aw: Tropical Savanna
- BS: Subtropical Dry Forest
- Cfa: Humid Subtropical
- Cfb-Cfc: Marine West Coast
- Cw: Mediterranean
- Cs: Semi-arid
- ET: Tundra

Scale: 0 to 1000 km. Source: Cui (2021).

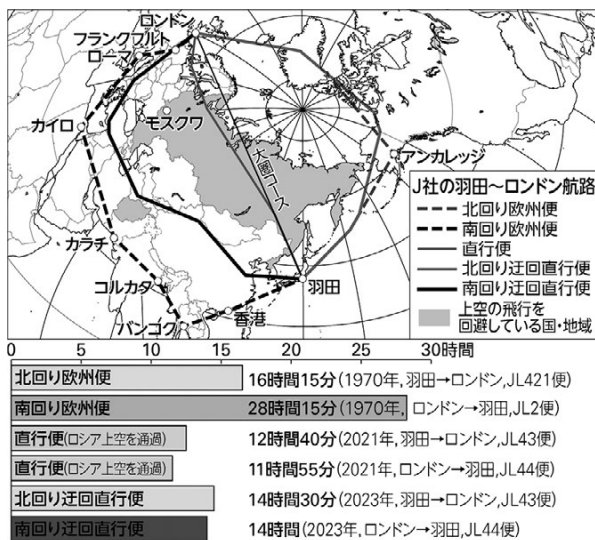
◀ p.170
「ラテンアメリカの気候区分」
(第3章9節)
最新かつ精細な気候値を用いた1kmメッシュ気候区分図により、各地域の精細な気候区分を示しており、農業や文化などの主題図と正確に対比させることができます。

D. 日本に関する記述の充実

内容の取扱い(1)オには、「各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察するようにする」とあります。これに対応し、各章において日本と関連づけた記述を充実させました。

日本と関連づけた題材を紹介！

- ・東京・ロンドン間の航路の変化(図版, p.44)
- ・新型コロナウイルス感染症の地図(コラム, p.23)
- ・ひろがる「こども食堂」の輪(コラム, p.203)
- ・インドのEVリキシャ(写真, p.128)
- ・クルド人の春分祭「ノウルーズ」(写真, p.136)
- ・さまざまな機関車(写真, p.190)
- ・人口ピラミッドを読み解く(技能, p.197)



↑ p.44 図2「東京・ロンドン間の航路の変化」

交通機関の発達から政治状況の変化まで、多面的に背景を考えさせることができる題材として、東京とロンドンの間の航路の変化を地図で示しました。

↓ p.107 コラム「ツナガリジャパン」の例

第3章「世界各地の生活文化」で取り上げた各事例の最後にはコラム「ツナガリジャパン」を掲載し、世界各地と日本の、産業や生活文化などを通した、つながりの事例を紹介しています。

ツナガリジャパン オーストラリアの「米の父」



↑ 高須賀稔・イチコ夫妻(オーストラリア・ヴィクトリア州, 1915年撮影)

オーストラリアのコンビニでは、おにぎりやスシロールが販売されている。米の反収は世界一ともいわれ、その約85%がジャポニカ米である。この国での米作りは一人の日本人から始まった。松山藩(愛媛県)出身の高須賀稔(写真9)は1905(明治38)年、家族とこの地に渡った。設備も種もないなか、水路を建設し米作りを試みたが、羊が敷地に入る被害や洪水、干ばつなど様々な問題に直面。堤防を造るなど努力を続け、米の商業生産に成功したのは1914年のことで、まさに偉業であった。現在は記念碑が建てられ、「米の父」として愛されている。

ひろがる「こども食堂」の輪

世界中でパブリックキッチン(公共の台所)という取り組みがみられるが、日本でも、NPO法人やボランティアによって、フードバンクの取り組みがようやく知られるようになった。最近では「こども食堂」や「地域食堂」、フードパントリー(食料庫)という活動が盛んになり、フードバンクとこうした活動が連携し、地域の実情に合わせた取り組みが展開している(写真8)。「こども食堂」は、子供が一人でも行ける無料または低額の食堂をいう。地域によっては「地域食堂」、「みんなの食堂」という名称で、地域の人々が集い交流する場となっていて、気軽に利用しやすい工夫がされている。

↑ ⑧「こども食堂」での多世代の交流(山口県下関市, 2021年12月撮影)

「こども食堂」は、貧困対策だけでなく、孤食の解消や食育、地域との交流など様々な役割を担っている。

⑨ 食品ロスとフードバンク

欧米や日本では、食から社会の課題を解決しようとする取り組みが展開している。大量生産・大量消費が進んだ社会において問題となっている食品ロスを減らす取り組みの一つがフードバンクである(図10)。フードバンクは、まだ十分に食べられる段階で捨てられていた食品を企業や農家から寄付してもらい、食料を必要としている人に届ける仕組みで、1967年にアメリカのアリゾナ州で初めて設立された。2012年にドイツで始まったフードシェアリングの取り組みをきっかけに、ヨーロッパや日本などでコミュニティフリッジ(写真9)やパブリックキッチン、こども食堂(写真8)などの試みが始まっている(図10)。

⑩ コミュニティフリッジ(スペイン, 2019年1月撮影)

「公共冷蔵庫」を登場させる。個人や企業から寄付を受け、生活困窮者に対して食料品や日用品の寄付を行っている。

⑪ フードバンクと子ども食堂の仕組み

※「全国こども食堂支援センター・むすびえ」のウェブサイトにてアクセスして、「こども食堂」について調べてみよう。

↑ p.203「食品ロスとフードバンク」

地球的課題を「対岸の問題」に終わらせることなく、身近な地域ともかかわりがあることを理解させるため、世界的な「フードバンク」の取り組みを、日本の「こども食堂」と関連づけて取り上げました。

ツナガリジャパン

- ・台湾と日本の交流 (p.115)
- ・日本で働くベトナム出身の技能実習生 (p.123)
- ・JICA 海外協力隊によるネパールでの心の教育 (p.129)
- ・学食でひろがるハラルフード (p.137)
- ・おしゃれなサブールと日本人デザイナー (p.143)
- ・ヨーロッパでブームの日本酒 (p.153)
- ・イクラでわかる日本とロシアのつながり (p.159)
- ・カナダの食文化として人気の「スシピザ」 (p.167)
- ・日本からブラジルへの移民と「日本祭」 (p.173)
- ・オーストラリアの「米の父」 (p.179)

② 対照表

教科書の単元構成		該当箇所	配当時数	学習指導要領の内容		
口絵 世界の友達から「こんにちは」、衣の世界・食の世界・住の世界		前1～5	－	B(1)		
地図とGISの活用 第1章	導入 進化する「もう一つの地球」の描き方	12～13	11	A(1) 地図や 地理情報システム と現代世界		
	1 球面上の世界	14～21				
	2 地図とGIS	22～33				
	アクティビティ① アニメの聖地マップを作ろう。	34～35				
	3 国家の領域と国際関係	36～43				
	4 人・モノ・情報のつながり	44～51				
	第1章のまとめ	52～53	－			
第2章 地理的環境の特色	導入 自然と人間が織りなすカラフルな世界	54～55	18	B(1) 生活文化の 多様性と 国際理解		
	1 地形と生活文化	56～67				
	2 気候と生活文化	68～83				
	アクティビティ② 料理を通して生活文化について考えよう。	84～85				
	3 産業と生活文化	86～93				
	4 宗教・言語と生活文化	94～99				
	第2章のまとめ	100～101	－			
第3章 世界各地の生活文化	導入 水が育む人々の多様な生活文化	102～103	11		B(1) 生活文化の 多様性と 国際理解	
	技能 デジタル地球儀を国際理解に活用する	104～105				－
	1 経済発展と生活文化の変化～東アジア【経済】	106～115				4*
	2 宗教の多様性と生活文化～東南アジア【社会】	116～123				3*
	3 モンスーンの恵みと生活文化～南アジア【自然】	124～129				2*
	4 イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏【社会】	130～137				3*
	5 多様な自然の恵みと生活文化～アフリカ【自然】	138～143				2*
	アクティビティ③ 旅行計画を立ててみよう。	144～145				
	6 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国【経済】	146～153				4*
	7 寒冷地の開発と生活文化～ロシアと周辺諸国【開発】	154～159				2*
	8 グローバル化による生活文化の変化～アングロアメリカ【経済】	160～167				4*
	9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ【開発】	168～173	2*			
10 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア【開発】	174～179	2*				
第3章のまとめ	180～181	－				
第4章 地球的課題と国際協力	導入 相互に関連する地球的課題～SDGs	182～183	12	B(2) 地球的課題と 国際協力		
	1 地球環境問題	184～187			2	
	SDGsと未来社会① 気温上昇を1.5℃に抑えられる社会	188～189			1	
	2 資源・エネルギー問題	190～193			2	
	SDGsと未来社会② 資源やエネルギーが循環する社会	194～195			1	
	3 人口問題	196～199			1	
	4 食料問題	200～203			1	
	SDGsと未来社会③ 安全で多様なトイレを利用できる社会	204～205			1	
	5 居住・都市問題	206～211			2	
	SDGsと未来社会④ 移民・難民と地域が共生する社会	212～213	1			
第4章のまとめ	214～215	－				
生活圏の諸課題 第5章	1 日本の自然環境と防災	216～237	13	C(1) 自然環境と防災		
	アクティビティ④ 身近な地域の災害リスクに備えよう。	238～239				
	2 生活圏の諸課題と地域調査	240～247		5	C(2) 生活圏の調査 と地域の展望	
アクティビティ⑤ 地域調査の結果を発信しよう。	248～249					
巻末資料 鉱産物・畜産物・農産物ギャラリー		256～後3	－	－		
* 第3章は「自然」「社会」「経済」「開発」のそれぞれから一つの事例地域を選択する。		配当時数	65			